

HOKURIKU ECONOMIC FEDERATION

北経連会報 | Mar. 2025

No. 225



北陸は一つ。

2025年新春経済懇談会	01
年頭会長挨拶	02
特別講演 「2025年の北陸経済は堅調に推移か」 日本銀行金沢支店長 大川 真一郎 氏	05
2025年度事業活動方針	09
活動報告	11
2025年度 北経連スケジュール	37
新会員のご紹介 / 会員異動	38
新規会員ご紹介のお願い	39



北陸経済連合会 設立の経緯

1967年、「“北陸は一つ”であるとの認識のもと、北陸の経済人が結集し、経済人の創意のもとに北陸の発展可能性を追求し、公正なる見解をとりまとめ、その実現に努力する場」として北陸経済連合会が設立されました。

2025年新春経済懇談会



新春経済懇談会

日 時：1月27日(月) 15:00-17:20
場 所：ANAクラウンプラザホテル金沢 オンライン配信併用
参 加：165名(会場141名、オンライン24名)

金井会長は冒頭挨拶で、輪島塗で製作された「大型地球儀」の大阪・関西万博での展示に向けた動き、北陸や国内の経済情勢について述べた後、2025年度事業活動方針の要点について説明した。

来年度の主な取組みとしては、2026～2030年度を対象とした「第六次中期アクションプラン」策定、能登半島地震・豪雨災害を受けての業務継続マネジメント（BCM）に関する企業の意識調査、市場・生産拠点として今後有望視されるベトナムのビジネス環境に関する調査等を挙げた。

また、開幕まで3か月を切った万博の前売券購入への協力も呼びかけた。会場には公式キャラクターである「ミャクミャク」がPRに駆け付け、愛らしい動きで参加者との記念撮影に応じていた。

特別講演では、日本銀行の大川金沢支店長が「最



北陸経済連合会 金井会長 日本銀行金沢支店長 大川真一郎 氏

近の金融経済情勢について」と題して講演。米国・欧州・中国等の海外経済状況に加え、北陸地域の経済情勢について、詳細なデータによる全国との対比を交えながら説明した。

経済懇談会終了後、新年互礼会を開催した。参加者は新年の挨拶を交わし、会場は熱気に包まれた。

年頭会長挨拶

はじめに

皆様、本日は大変ご多用のところ、新春経済懇談会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。また、皆様方には日頃から当会の活動に対しまして格別のご高配を賜っております。重ねて御礼を申し上げます。

また本日は、中部経済産業局の寺村局長様をはじめ、政府機関から多くのご来賓にご参加いただいております。ご来賓の皆様方には日頃から格別のご指導、ご鞭撻を賜っております。改めて御礼を申し上げます。

さて、能登半島地震の発生から1年余りが経過いたしました。被災地では地震による被害に加え、9月の集中豪雨災害が重なり大変過酷な状況となっておりますが、復旧に携わる皆様方のご尽力により、道路、上下水道などのインフラの復旧や仮設住宅の建設など、復旧への歩みが着実に進められております。

当会ではこれまで、被災地の要望を直接政府等に届けたほか、産業復興・再生ビジョンの策定などの取り組みを行ってまいりました。また現在、石川県、輪島市、輪島塗技術保存会、経団連と連携し、輪島塗で製作した「大型地球儀」を大阪・関西万博の会場で展示する計画を進めており、既に展示場所も万博協会に決めていただきました。これを機会に、輪島塗の魅力を広く世界の人々に知っていただけるものと期待しております。



それでは、年頭にあたりまして、昨今の経済に対する認識と2025年度事業活動方針につきまして話をさせていただきます。

経済情勢について

昨年の北陸経済は、北陸新幹線の敦賀延伸に伴うインバウンド需要の高まりや、復旧・復興のための公共投資の増加、賃上げによる個人消費の持ち直しなどにより、全体としては緩やかに持ち直した一年でありました。

一方、能登半島地震や豪雨の被災地における経済活動はいまだ回復の途上にあり、復旧・復興の加速が必要と考えております。

本年は、賃上げの継続による個人消費の回復に加え、サプライチェーンの強靱化、デジタル化、脱炭素に向けた設備投資の進展、北陸新幹線敦賀開業による観光需要の継続などにより、昨年に続いて底堅く推移していくことを期待しております。また、大阪・関西万博の開催を契機とした北陸への観光客増加の効果も期待しております。

一方、輸入品の価格の上昇、中国の景気減速、欧州や韓国における政情不安に加え、米国では関税引き上げや移民の規制強化等が予定されるなど、海外情勢が大きく流動化しており、こうした動きが経済に及ぼす影響について注視していく必要があります。

2025年度事業活動方針について

次に、2025年度事業活動方針について説明いたします。詳細につきましては、お手元の資料をご覧くださいと思います。

まず、1番目の「第六次中期アクションプランの策定」につきまして、2025年度は現行アクションプランの最終年度にあたり、これまでの取り組みの仕上げを行うとともに、北陸近未来ビジョンで掲げました「スマート・リージョン北陸」の実現に向け、新たに第六次のアクションプランの策定を行います。策定にあたりましては、近未来ビジョン策定時からの情勢の変化を踏まえ、幅広い分野・世代の方のご意見をいただきながら進めてまいります。

次に、2番目の「能登半島地震・豪雨からの産業復興・再生に向けた取り組み」につきましては、昨年策定し

た産業復興・再生ビジョンのフォローアップに加え、事業継続マネジメント、いわゆるBCMに対する企業の意識調査など、災害に強い地域づくりに向けた取り組みを進めます。

3番目の「スマート・リージョン北陸に向けた社会基盤整備の促進」では、北陸新幹線敦賀・新大阪間の早期着工に加え、スマートシティ構想に関する提言や講演会などの情報発信を行ってまいります。

また、2024年度に立ち上げました「カーボンニュートラルBASE北陸」につきまして、イベント開催や展示会への出展等を通して、地域におけるカーボンニュートラル経営の拡大に向けて取り組んでまいります。

さらに、「連接型都市圏形成による北陸の地域力向上策の具体化」につきまして、2024年度に北陸新幹線敦賀開業を契機とした北陸の地域力向上のための施策について提言いたしましたが、その施策の具体化を進めてまいります。

お配りした資料には、親指を持ち上げたようなマークが記載されておりますが、これは北陸三県を模したものでありまして、北陸三県の連携のシンボルとして今後活用していきたいと考えております。

4番目の「北陸企業の労働生産性の向上と成長」につきましては、引き続きDXの推進や、産学の交流機会の提供等を行います。

次に、市場開拓につきましては、新たに有望な海外市場として考えるベトナムのビジネス環境調査を行います。

また、市場におけるシェアの高い製品・技術を紹介する「北陸のシェアトップ150」も、2018年の前回改訂から

7年が経過しておりますので、新たに改訂して北陸企業をPRしてまいります。

最後の5番目の「北陸企業のダイバーシティ&インクルージョン」につきましても、女性やシニアの活躍、副業・兼業人材の活用、外国人材の活用などに引き続き取り組んでまいります。

大阪・関西万博 前売チケット購入への協力について

最後になりますが、今年のビッグイベントであります「大阪・関西万博」についてです。

万博の開幕まで3か月を切りました。万博を成功に導くため、当会としても万博への誘客促進に向け支援していきたいと考えております。

皆様のお手元に、万博の前売チケット購入のお願いに関する文書をお配りしております。会員の皆様におかれましては、ぜひともチケットの購入についてご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

おわりに

以上、経済の現状認識と来年度の取組みなどについて話をいたしました。

本日は後ほど、日本銀行金沢支店長の大川様から、新年恒例の「最近の金融経済情勢」についてご講演をいただきます。会員の皆様の経営判断等に活かしていただければ幸いです。

本年が、皆様方にとって幸多く、また実り多い一年となりますことを祈念申し上げまして、私の年頭の挨拶とさせていただきます。



最近の金融経済情勢について

2025年の北陸経済は堅調に推移か

日本銀行金沢支店長 大川 真一郎 氏



1月27日、「新春経済懇談会」をANAクラウンズラザホテル金沢で開催し、特別講演として日本銀行金沢支店の大川支店長に世界・日本・北陸の経済動向、国内の消費や賃金、物価の先行きについて解説いただきましたので、ご紹介します。

米経済は好調も政権次第

IMF（国際通貨基金）によると、世界経済はコロナ収束以降、3%ほどの成長を達成しており、今後もこのペースを維持する見通しです。

うち、アメリカについては、「好調」と表現して差し支えないでしょう。とりわけ、個人消費と設備投資が旺盛で、さらに労働生産性もAIなどの先進的産業の発展から右肩上がりに高まっています。

他方、懸念は失業率です。コロナ禍で8%を超えていた失業率は、3.9%あたりまで回復していましたが、2024年に入ってから4%を超え、上昇傾向となる気配が強まっていました。FRB（連邦準備制度理事会）としては政策金利を上げてインフレの抑制に動きたいところだ

が、雇用維持のために利下げも要検討というのが少し前の状況でした。現状、失業率は横ばいで安定しているので、しばらくは据え置きで問題ないという判断のようです。

トランプ政権の動向も見逃せません。所得税減税の恒久化、法人税の引き下げをはじめ、不法移民の強制送還の一部開始とこれに伴う国境警備の強化、カナダとメキシコに対する関税引き上げ、グリーン政策の巻き戻し、規制緩和等が検討されています。

減税や規制緩和は経済を活性化させる一方、移民と関税政策は短期的にはマイナスで、各種政策がトータルでプラスマイナスどちらに作用するかはタイミング次第です。グリーン政策の巻き戻しと規制緩和で民間活力が引き出され、経済成長を押し上げた場合は物価も上がり、関税アップがそれに輪をかけるとみられます。

移民政策は特定産業にダメージとなり、景気を下押しするため、物価を下押しの可能性があります。他方、移民の減少による人手不足は賃金上昇とインフレを招きますから、影響が判断しにくいところです。

総じてみればトランプ政権の政策は、全体的にインフレに働きやすく、短期的にマイナス面が出るかもしれ

ないというのが日銀の分析です。

ドイツが足を引っ張る欧州

次に欧州経済です。GDPの推移を見ると底を打った感がありますが、設備投資の回復が弱いことを気にしています。EU全体やフランス、イタリア、スペインのGDPはコロナ前を上回っているものの、ドイツだけはコロナ前と同じレベルで、下降する気配さえあります。

ドイツが苦しいのは、環境規制の強さが一因です。2025年から予定通り規制強化を実施すれば、基準を達成できていない自動車メーカーにとってネガティブ要因となります。

また、ドイツは、ロシアとの天然ガスの取引をやめ、別の国からの輸入に切り替えています。価格が高く、高止まりするエネルギーコストが企業を苦しめています。加えて、欧州の政策金利がインフレ退治のため、高めで推移していたことも大きく影響しています。

更に、ドイツはここ10年、中国に傾斜し過ぎました。特に自動車産業では、中国の景気が若干悪くなってきたことや、中国製自動車が国際競争力を高め、ドイツ等からの自動車輸入を必要としなくなったことが下振れ要因になっています。ドイツでは設備投資も大きくマイナスに転じてしまい、反転上昇にはしばらく時間がかかりそうな気配です。

中国は消費と不動産取引が低調

そして中国経済です。足もとで大体5%弱ぐらいの成長率ですが、中国の国内消費がどんどん落ちているのが気がかりです。

中国政府には、景気悪化局面に企業の設備投資と輸出にプレッシャーをかけ、景気を刺激する癖があります。しかし、国民の消費マインドはそう簡単にコントロールできません。

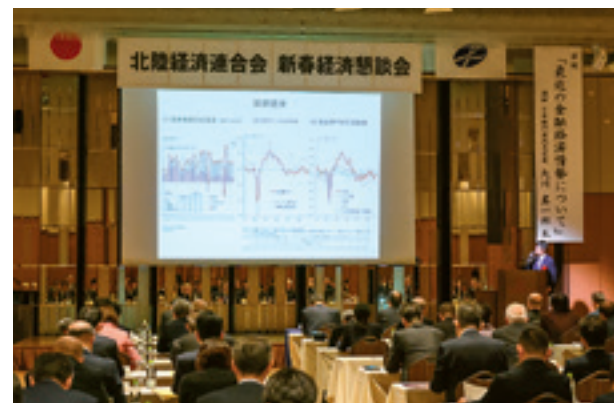
消費低迷の主な原因は、不動産の不調です。不動産の在庫が70カ月を超え、造っても売れない、あるいは造りかけで頓挫しています。当然、価格はどんどん下がりがり、3年以上も下落を続け、日本のバブル崩壊時に似ています。

もう一つ気になるのが失業率で、特に若者が足もと16〜18%と顕著に上昇しています。若者が職に就けない状況が何年も続くと、その国の潜在成長力にじわじわ響いてくるので、要注意です。

とはいっても、中国は本当に悪い状況になると、金融・財政政策をフル稼働して何とか対処してきた歴史があり、今回も矢継ぎ早に金融・財政政策を打っているところではあります。

北陸の企業利益には明暗

そして日本経済については、実質GDPが復活してきて、コロナ禍の落ち込みを取り戻し、さらに上へ向かっていくフェーズです。企業短観における業況判断DIは、



製造業ではプラスマイナスが足もとゼロ近傍で、非製造業では安倍政権時を上回るプラスの状況です。



では、これを踏まえ北陸経済はどうかというと、鉱工業指数は、全国と同じように弾みがつかない印象です。富山は、化学薬品の生産体制が整って、これから伸びていくところですが、数字に現れるまでにはまだ時間を要しそうです。住宅投資があまり伸びていないことがアルミ産業や住宅関係に影響し、下押し圧力になっています。

石川は生産用機械・一般機械が強いのですが、小幅の改善と悪化を繰り返しています。欧州や中国と取引のある企業が苦労しているようで、予断を許さない状況です。

福井はIT産業が23年に在庫調整で生産を落とし、2024年春から若干戻しています。先行きAI関係の需要が盛り上がる予測になっており、本当にそうなるか注視が必要です。需要の後ずれであれば、夏過ぎぐらいから盛り上がり予想されます。

北陸企業の経常利益を短観の2024年度計画で見ると、製造業は前年度比プラス13.6%で、非製造業はマイナス22.5%の見通しです。電気・ガスの特殊要因を除け

ば、全体として若干のプラスです。ただ卸売は若干苦しい状況です。

社数構成比では、製造業は増益企業・減益企業が半々程度で、減益の企業数がやや多くなっています。非製造業も増益・減益半々ぐらいですが、前年よりも減益の企業が増え、良い先と悪い先の差が開きつつあると言えます。設備投資の2024年度計画では、製造業の半分強が前年度より増やしています。一方、非製造業は手控え気味で、減少が35%、増加が31%と、投資に躊躇する姿が見て取れます。

実質賃金に明るい兆し

次に、個人消費を確認します。北陸の個人消費は弱いとまでは言えず、現時点では相応の水準を維持しています。ただ、節約志向の中でより安い物を買求めるうちは良いですが、そこからさらに何も買わなくなるところまで進む可能性もあり、注意が必要です。現状の北陸は、まだそこまで至っていません。

観光に目を向けると、旅行消費額と外国人宿泊者数はコロナ前を上回り、特に石川は外国人が増えています。日本人宿泊者数はコロナ前をやや上回る程度で、北陸新幹線の延伸効果で東京から大勢の人が訪れているように感じますが、伸びを支えたのはインバウンドでした。

そして、消費を支えるのは賃金です。実質賃金指数の全国値はマイナスから伸び率0%に近づいてきているものの、安定した0%超えはしていません。一方、北陸の実質賃金はこの半年間0%をほぼ超え続け、より高い位置で安定するレベルに差し掛かっています。

北陸全体に復興投資の効果

住宅投資・公共投資・物価についても現状と先行きを確認します。住宅投資は材料費が上がり、人口も減っていることから、全国的に下降トレンドです。

北陸では下げ止まっていますが、その要因は能登で比較的資産のある方が能登半島地震後、壊れた家を更地にしてもう一度、家を建て始めているからだと考えられ、北陸全体が良いわけではありません。

公共投資も全国と北陸とでは乖離があります。能登の復旧・復興で、石川には相当な額の予算が国・県・市町レベルで注がれています。復旧・復興は富山や福井の業者の手も必要なため、今後も北陸全体に効果が波及するのではないのでしょうか。

北陸の物価は、全国と同じような動きをしており、足もと3%程度の上昇率です。日銀では、物価が22年に上がり始めた後、急激に下がると懸念していましたが、実際には2年半以上にわたり2%超えが続いています。物価上昇の勢いは当初思っていたより強く、今後もしばらく続く可能性があると考えています。

北陸経済を総括すると、製造業は堅調で、非製造業はコストが上昇する下で厳しいながらも、個人消費はある程度堅調に推移していく。住宅投資、公共投資は震

災からの復興需要で伸びていく。全体の評価としては、25年の北陸の景気は一方向に下がることはなく、北陸新幹線の延伸効果はまだ続くでしょうし、多額の予算の付いた公共投資も下支えするでしょう。

物価安定へ、金利を引き上げ

最後に、先週、日銀が金利を引き上げましたので、その背景を説明したいと思います。生鮮食品とエネルギーを除いたコア消費者物価が2%を超えて上昇してきており、この物価上昇は3年近く続いています。

物価の安定、あるいは物価の安定を通じ国民経済に貢献することが日銀に託された役割です。そのため、今回0.25%から0.5%に金利を引き上げました。円安由来の物価上昇圧力を抑制することに加え、0.5%ぐらいであれば実体経済の底割れはないだろうという判断です。

ただ、金利の上昇は、トータルでは企業活動にネガティブに働きます。このネガティブの度合いは、中小・零細企業が多い地方ほどビビッドです。日本全体として耐えられても、地方の県、市町レベルでは耐えられない局面もあり得ます。日銀としても特に留意する必要があると考えています。

大川 真一郎 (おおかわ しんいちろう) 氏 プロフィール

1971年9月生まれ、神奈川県出身。東京大学経済学部卒。1994年4月日本銀行入行。2006年7月政策委員会室企画役、2009年7月金融市場局企画役、2011年3月政策委員会室企画役、2016年6月ワシントン事務所長、2018年6月企画局参事役 兼 政策委員会室参事役、2021年1月松本支店長、2022年7月国際局参事役、2024年5月金沢支店次長を経て、同年6月より現職。

2025年度事業活動方針

2024年の日本経済は、円安による物価高の継続や、世界経済の不透明感など懸念材料がありながらも、企業の賃上げや設備投資拡大など長年続いたデフレ経済からの脱却に向けた動きが見られた。

北陸地域においては、能登半島地震・豪雨からの復旧・復興や、深刻な人材不足への対応などの課題を有しながらも、北陸新幹線敦賀開業による域内外の交流活性化や、新たな需要拡大の好機を迎えており、北陸一体で産業競争力強化・地域力向上に取り組む必要性が高まっている。

2025年度の主な計画

< 1. 第六次中期アクションプランの策定 > 【新規】

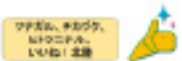
- (1) 北陸近未来ビジョン「スマート・リージョン北陸」の実現に向けた、第六次中期アクションプランの策定 (対象年度 2026年度～2030年度)

< 2. 令和6年能登半島地震・豪雨からの産業復興・再生に向けた取組み >

- (1) 復旧・復興、「産業復興・再生ビジョン」に対する継続的なフォローアップ
(2) BCM (業務継続マネジメント:BCPの策定・管理) に対する企業の意識調査など災害に強い地域づくりに向けた取組みの推進【新規】

< 3. スマート・リージョン北陸に向けた社会基盤整備の促進 >

- (1) 北陸新幹線敦賀～新大阪間の早期着工、早期全線整備に向けた要望活動、関西地域の機運醸成に資する沿線自治体や関西経済界と連携した活動
(2) 高規格幹線道路、空港、港湾、鉄道等の人流・物流基盤の強化に向けた要望活動や情報発信
(3) スマートシティ構想 (デジタル技術やデータ利活用によるウェルビーイング向上、経済活動促進、社会課題解決) に関する提言や講演会などの情報発信【新規】
(4) 「カーボンニュートラルBASE北陸」のイベント開催や展示会への出展等、カーボンニュートラル経営の拡大に向けた活動【新規】
(5) 地方創生に向けた取組み
・人や企業の地方移転等、東京一極集中打破を促すための要望活動
・連接型都市圏形成による北陸の地域力向上策の具体化 (北陸三県の連携を表すシンボルマーク ※活用による一体感創出の取組み等)【新規】



2025年度は、「第五次中期アクションプラン」の最終年度にあたる。これまでの取り組み実績から施策をブラッシュアップし、成果に繋げるとともに、社会経済環境の変化やフィンランド視察で得た知見等を踏まえ、「スマート・リージョン北陸」の実現に向けた新たなアクションプランの策定に取り組む。

あわせて、能登半島地震・豪雨災害からの復旧・復興、北陸新幹線早期全線整備に向けた取組み、イノベーション促進による付加価値向上、人材の育成・確保に引き続き取り組み、一人当たりGRPの向上に繋げていく。

< 4. 北陸企業の労働生産性の向上と成長 >

- (1) 企業のDX推進や設備投資に資する講演会の開催や情報発信
(2) デジタル人材育成講座の開催、リスキリング教育の情報提供
(3) 大学等の見学会や北陸産学技術交流会の開催による交流機会創出
(4) 域内外スタートアップ支援団体との連携強化と共催イベント開催
(5) 新事業創出に向けた産学官金連携プラットフォーム (テック・スタートアップ北陸、北陸RDX、北陸未来共創フォーラム) への参画と協力
(6) 市場開拓
・会員企業の海外市場展開に資する現地最新情報の提供
・アジア諸国との経済交流会議の開催
・有望海外市場 (ベトナム) のビジネス環境調査【新規】
・北陸三県と連携した高付加価値なインバウンド観光地づくり
・北陸新幹線敦賀開業を活かした北陸三県への誘客活動
・「北陸のシェアトップ150」(2025年度改訂)を活用した北陸企業のPR【新規】

< 5. 北陸企業の「ダイバーシティ&インクルージョン」スランド化の推進 >

- (1) 女性活躍をはじめD&I推進に関する調査・報告に基づき、企業・経営者向けの情報のあらゆる機会を捉えた発信
(2) シニアの戦力化に向けた人事・賃金等の制度設計や環境整備、経営者の意識改革に資する情報の発信
(3) 副業・兼業人材の活用や男性育休の推進等、多様な働き方を通じた企業価値向上に資する情報の発信
(4) 北陸未来共創フォーラムの人材流入・地域定着分科会等と連携した企業と留学生のマッチング支援等、高度外国人材 (外国人留学生等) の地域定着に向けた取組み

以上の方針に基づき、各委員会で事業計画案を審議・策定 (2025 年 3 ～ 4 月) の上、定期総会で決定する予定。

2025年度事業活動方針

なお、北陸経済連合会は、2030年代中頃の北陸の
ありたい姿「スマート・リージョン北陸」の実現に向け、
「一人当たりG R P（域内総生産）700万円」と「多様性
と一体性の両立」の2つの目標を掲げている。

この目標の達成に向け、2021年度から4年間、「第五
次中期アクションプラン」に基づき、「社会基盤整備の
促進」、「北陸企業の労働生産性の向上と成長」、「多
様性と一体性の両立」の3つを柱として以下の事業を実
施し、成果をあげてきた。

2021～2024年度の主な取り組み

●能登半島地震からの復旧・復興

- ・令和6年能登半島地震に関する要望活動
- ・「能登半島地震からの産業再生・復興ビジョン」策定・公表

●スマート・リージョン北陸に向けた社会基盤整備の促進

- ・北陸新幹線の大阪までの早期全線開業に向けた
政府等への要望活動、建設促進大会への参画（2024年
3月金沢・敦賀間開業）
- ・北陸地域でのカーボンニュートラル推進に向けた産学官
金プラットフォーム「カーボンニュートラルBASE北陸」設立
- ・連接型都市圏形成による北陸の地域力向上に関する提言

●北陸企業の労働生産性向上と成長

- ・大学発スタートアップ創出事業「テック・スタート
アップ北陸」等への参画
- ・「北陸デスティネーションキャンペーン」等、北陸新
幹線敦賀開業を活かした北陸三県への誘客活動
- ・フィンランドへの経済視察（I9の政府機関・企業・
大学等を訪れ、ウェルビーイング、カーボンニュートラ
ル、DX、DE&I等について意見交換を実施）

●北陸企業の「ダイバーシティ＆インクルージョン」フランド化の推進

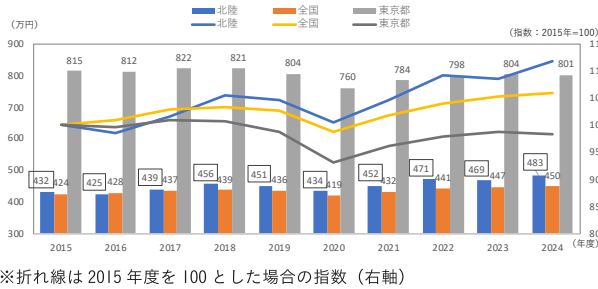
- ・女性活躍に関する会員企業の取り組み状況や女性
の就労意識の調査・公表
- ・外国人留学生と留学生OBとの意見交換会、外国
人留学生採用に関するシンポジウムの開催

【一人当たりG R P目標の達成に向けて】

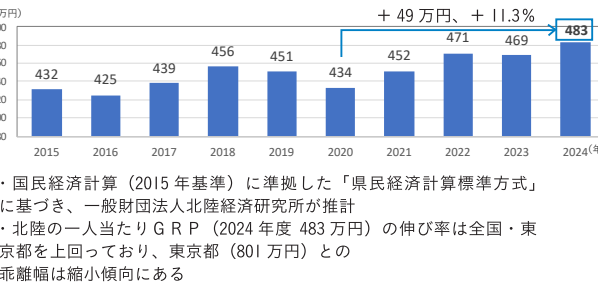
北陸における2024年度の一人当たりG R Pは483万円
（基準年からの物価の変動を除いた実質値、一般財団
法人北陸経済研究所の試算）。

2020年度に比べ49万円（+11.3%）増加し、2015年度
以降で最も高い値となったが、2030年代中頃に目標と
する700万円に到達するためには、北陸の産業・技術・
人材などの集積を基盤に、新幹線等の高速交通網の整
備やG X、DXを推進しながら、増加ペースを上げてい
く必要がある。

参考1）一人当たりG R Pの推移（北陸、全国、東京都）



参考2）北陸における一人当たりG R Pの推移



・国民経済計算（2015年基準）に準拠した「県民経済計算標準方式」
に基づき、一般財団法人北陸経済研究所が推計
・北陸の一人当たりG R P（2024年度 483万円）の伸び率は全国・東
京都を上回っており、東京都（801万円）との
乖離幅は縮小傾向にある

以上

活動報告

（2024年7月～2025年2月）

	7月10日（水）～31日（水）	実務者向けデジタル人材育成講座	PI3
2024年	8月1日（火）	政府・与党等への要望活動	PI3
	8月2日（金）	第31回北陸地域懇話会	PI3
	8月8日（木）	北陸企業と外国人留学生との交流会	PI4
	8月22日（木）	北陸デスティネーションキャンペーン実行委員会・記者会見	PI4
	8月23日（金）	第51回三県知事との懇談会	PI5
	8月24日（土）～25日（日）	いしかわ環境フェア2024 出展	PI5
	8月26日（月）	第20回 北陸(日本)・韓国経済交流会議	PI6
	9月3日（火）	「フィンランド共和国経済視察」第I回事前勉強会	PI7
	9月4日（水）	第II回北陸産学連携懇談会	PI7
	9月4日（水）	金沢美術工芸大学見学会	PI7
	9月5日（木）～6日（金）	国際フロンティア産業メッセへの出展（企業誘致活動）	PI8
	9月10日（火）～11日（水）	三経連経済懇談会	PI8
	9月17日（火）	北陸地区観光商談会	PI9
	9月18日（水）	地域間連携 スタートアップマッチングピッチ 北陸x大阪・関西	PI9
	9月26日（木）	社会基盤委員会現場視察会	PI9
	9月26日（木）	人事担当者のための男性育休講座	P20
	9月27日（金）	北経連セミナー「ウェルビーイング経営とは何か？先進企業に学ぶ考え方と実践」	P20
	10月3日（木）	カーボンニュートラルBASE北陸キックオフイベント	P21
	10月4日（金）	北投促オンライン勉強会 地方創生10年の『これまで』と『これから』	P21
	10月5日（土）	北陸デスティネーションキャンペーンオープニングイベント	P21
	10月8日（火）	西日本経済協議会（西経協）総会	P22
	10月8日（火）	とやま環境フェア出展	P22
	10月12日（土）～20日（日）	フィンランド経済視察	P22
	10月17日（木）～18日（金）	北陸技術交流テクノフェア2024出展	P23
	10月23日（水）～25日（金）	北陸国際投資交流促進会議（企業誘致）Japan IT Week秋 出展	P23
	10月24日（木）～25日（金）	ベトナム政府幹部研修生受け入れ	P23
	10月25日（金）	第II回関西・北陸交流会	P24
	10月31日（木）	会員懇談会（石川会場）	P24
	11月3日（日・祝）～4日（月・休）	北陸デスティネーションキャンペーン北陸グルメイベント	P25
	11月12日（火）～13日（水）	マッチングハブ北陸2024（北経連後援）	P25

活動報告

	11月13日（水）	北陸選出自民党国会議員との懇談会	P25
	11月13日（水）	三経連要望活動	P25
	11月14日（木）	北陸新幹線（敦賀・大阪間）建設促進 総決起大会、合同中央要請	P26
	11月20日（水）	経団連との第51回北陸地方経済懇談会	P27
	11月23日（土）	北陸環境共生会議「つるが環境フェアCool CHOISE 2024」出展	P27
	11月25日（月）	会員懇談会（富山）	P28
	11月27日（水）	社会基盤委員会現地視察会	P28
	11月28日（木）	西日本経済協議会 要望活動	P28
	12月2日（月）	人財活躍推進委員会	P29
	12月3日（火）	新たな価値創出委員会	P29
	12月3日（火）	新たな価値創出オンライン講演会	P29
	12月5日（木）	観光委員会	P30
	12月9日（月）	社会基盤委員会	P30
	12月9日（月）	物流2024年問題 持続可能な物流の実現に向けた講演会	P30
	12月10日（火）	中部・近畿経済産業局との懇談会	P31
	12月13日（金）	総合対策委員会	P31
	12月16日（月）	国際委員会	P32
	12月16日（月）	2024年度 第2回 海外現地情勢報告セミナー ～中国～	P32
	12月18日（水）	第363回常任理事会	P33
2025年	1月20日（月）	北陸産学技術交流会（見学会）製品評価技術基盤機構（NITE）が 取組むイノベーション支援等の紹介と施設見学	P33
	1月22日（水）	北陸×新潟連携スタートアップピッチ	P33
	1月23日（木）	カーボンニュートラルBASE北陸マッチングイベント	P34
	1月23日（木）	報告書「北陸企業DE&I推進の取組み～女性活躍推進10年の歩みとこれからのダイバーシティ」公表	P34
	1月29日（水）	北陸産学技術交流会（情報交換）福井工業大学「生成AIで拓く北陸の未来～観光・ビジネスと安心安全～」	P35
	1月30日（木）	大阪での北陸観光PRイベント	P35
	2月4日（火）	会員懇談会（福井）	P35
	2月10日（月）	2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)機運醸成委員会	P36

実務者向け
デジタル人材育成講座

開催日：7月10日～31日 毎週水曜日 全4回
形 態：オンライン講座
講 師：富山大学 名誉教授・特別研究教授 中川大 氏
主 催：北経連、(一財)北陸産業活性化センター（後援：富山大学）
受講者：67名（講義演習60名、講義のみ7名）

本講座は、データサイエンスのできる事やツール等を学べる入門者向け講座として2020年度から毎年開催しており、今回が5回目となる。

講座後の復習や、受講できなかった際の補習のため録画した動画を配信し、注目度の高い生成AI活用を取り上げるなど、講座内容に工夫を加えた結果、受講者アンケートでは好評の声が多く聞かれた。

政府・与党等への要望活動

日 時：8月1日(木) 10:00-17:55
場 所：首相官邸、議員会館、関係省庁
参 加：金井会長、庵副会長、和田常任理事、杉野理事ほか

与党国会議員や関係省庁に対し、「政府に対する北陸経済界からの要望書」をもとに要望活動を行った。

- 金井会長、庵副会長、杉野理事からは、
- ・能登半島地震からの復旧・復興
 - ・北陸新幹線の日も早い大阪までの全線整備
- 和田常任理事からは、
- ・大学を活用した社会人向け人材育成事業への支援
 - ・外国人留学生の就職促進および活用・定着
- 等を中心に、それぞれ要望した。



- 【主な要望先】
- 林 内閣官房長官（写真）
- 自民党 田村 政務調査会長代行
- 公明党 石井 幹事長
- 国交省 斉藤大臣、足立 鉄道局大臣官房審議官、
佐々木 道路局次長
- 経産省 岡田 中小企業庁経営支援部長
- 文科省 伊藤 高等教育局長、塩見 研究振興局長、
井上 科学技術・学術政策局長、笠原 大臣
官房文教施設企画・防災部長
- 内閣府 長橋 内閣官房復旧・復興支援総括官、
濱野 科学技術・イノベーション推進事務局長
- 【詳細】<https://www.hokkeiren.gr.jp/news/1968.html>

第31回北陸地域懇話会

日 時：8月2日(金) 15:30-17:30
場 所：TKPガーデンシティPREMIUM金沢駅西口
参 加：69名（会場62名、オンライン7名）

北陸地域懇話会を開催し、国交省から高松 北陸地方整備局長、佐橋 北陸信越運輸局長はじめ31名、北経連から金井会長はじめ38名が参加した。

金井会長は冒頭挨拶で、地震からの復旧への国交省の尽力に謝意を示すとともに、復興と社会基盤整備の必要性に触れ、北陸新幹線については大阪までの一日も早い着工に向け、早期の駅位置、詳細ルート の決定を求めていくと意気込みを示した。

その後、国交省から、北陸・近畿の地域振興や運輸・観光施策の紹介があった。北経連からは、東田専務理事が「能登半島地震からの産業復興・再生ビジョン」について、光野常任理事が北陸の社会基盤整備について、庵副会長が観光について取組みを紹介した。

活動報告

自由懇談では、久岡理事が能登半島地震について、小杉常任理事が北陸新幹線敦賀開業による地域力向上について、大門常任理事が2024年問題について、宮岸常任理事が地域交通の人材確保について質問・要望し、活発な意見交換となった。



北陸企業と外国人留学生との交流会

日 時：8月8日(木) 15:00-17:30
場 所：金沢ニューグランドホテル
参 加：68名(会場51名、オンライン17名)

北陸企業による外国人留学生の採用事例報告会・北陸企業と外国人留学生との交流会を開催し、7大学の留学生、留学後に北陸企業に入社した留学生OB等、68名が参加した。これは、域内大学に通う留学生の北陸企業への就職支援、北陸企業の生産性向上に資する高度外国人材の活用を図るために開催したもの。

冒頭、東田専務理事から「企業には外国人留学生を採用するメリットを理解してもらい、留学生には北陸企業の魅力に触れて欲しい」と挨拶した。

第1部では、北陸電気工事(株)、津田駒工業(株)の人事担当者が留学生の採用事例を報告し、入社した留学生OBが仕事内容を説明し、現役留学生に助言した。

第2部は、北陸企業と留学生との交流会。留学生は、自発的かつ熱心に企業の採用担当者らとコミュニケーションを取っており、今後の北陸企業への就職が大いに期待される。



北陸デスティネーションキャンペーン実行委員会・記者会見

日 時：8月22日(木)
場 所：ホテル金沢

2024年10～12月に北陸三県で開催する大型観光キャンペーン「北陸デスティネーションキャンペーン(DC)」の実行委員会が開催された。委員会はJRグループと北陸三県、各県観光連盟、北経連などで構成。委員会終了後、記者会見を行い、キャンペーンの内容を発表した。

北陸DCは北陸新幹線が開業した2015年以来9年ぶり2回目の開催となり、今回は、「Japanese Beauty Hokuriku～日本の美は、北陸にあり～」をキャッチフレーズに、5つの美(美観・美食・美技・美湯・美心)をテーマに行われる。

オープニングイベント(10/5～6、加賀温泉駅で北陸の伝統芸能・食を紹介)を皮切りに、「北陸デザインラッピング新幹線(9/28～)」、「北陸三県 食の祭典(11/3～4、氷見市)」、「デジタルスタンプラリー」、「WESTERポイント北陸新幹線フリーパス」など様々な企画・イベントが展開される。

記者会見では、馳石川県知事が挨拶し、「これまで以上に三県、JR西日本等が連携し、金沢開業時を超える成果を上げたい」と意気込みを語った。

【北陸DC公式サイト】<https://visit-hokuriku.jp/>



第51回三県知事との懇談会

日 時：8月23日(金) 14:00-16:30
場 所：コートヤード・バイ・マリオット福井
参 加：105名(会場82名、オンライン23名)



金井会長は、北陸新幹線敦賀開業等の外部環境の変化を踏まえ、「北陸は一つ」の理念のもと三県一体になって諸課題に取り組むと語り、協力を求めた。懇談では、北経連の稲垣・安宅・八木副会長から3つのテーマについて問題提起し、各知事が発言した。

①能登半島地震からの復旧・復興

馳石川県知事と新田富山県知事は、復旧の現状について報告した。馳知事は、近隣県や国の支援も力に復旧・復興を加速させたいと述べた。杉本福井県知事は、珠洲市等への支援策とあわせ、能登地震を踏まえた防災計画見直しの動きについて紹介した。

②北陸新幹線を活用した北陸の地域力向上策

杉本知事は、観光客の大幅な増加に触れ、更にインバウンド観光を強化したいと述べた。また、三県合同で初開催した「女性活躍サミット」にも触れ、地域力向上を図る上で女性活躍・三県連携は不可欠と強調した。馳知事は、三県企業の合同説明会による学生の北陸定着に向けた取り組みについて、新田知事は、三県合同の関西圏への北陸情報発信拠点「HOKURIKU+ (ホクリクプラス)」が好調なスタートを切ったことや、並行在来線の連携に

よる地域交通網の利便性向上の取り組みを紹介した。

③北陸地域におけるカーボンニュートラルの推進

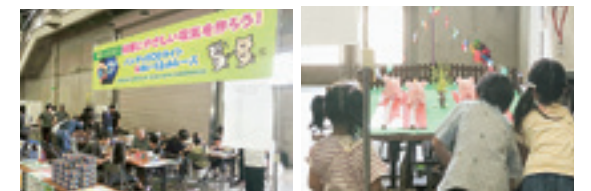
カーボンニュートラルの取り組みを北陸全体に拡げるため、北経連が三県合同のプラットフォーム(『カーボンニュートラルBASE北陸』)の立上げを提言したのに対し、各知事が賛同した。

馳知事は、北経連が三県の触媒機能を果たし、脱炭素の取り組みを浸透させて欲しいと述べた。杉本知事は、敦賀港のカーボンニュートラルポートの取り組みを紹介するとともに、諸課題に取り組む「オープンフォーラム」を北陸全体に広く展開したいと提案した。新田知事は、富山県で進める水素・アンモニアのサプライチェーン構築に向け、課題解決には広域的な視点が重要だと述べた。

質疑応答では、「今後三県が連携して全国・世界に向け取り組みたいこと」を問われ、三県知事は揃って「インバウンド観光の強化」を挙げた。また、「新しい北陸に向け重視していること」としては、「二地域居住やメディア芸術」(馳知事)、「ウェルビーイング」(新田知事)、「新幹線を小浜・京都ルートで大阪へ」(杉本知事)等を挙げ、三県の官民が共通認識を持って連携することの重要性を確認した。

いしかわ環境フェア2024 出展

日 時：8月24日(土)～25日(日)
場 所：石川県産業展示館4号館



北陸環境共生会議は、いしかわ環境フェア 2024に出展。小中学生を対象に「楽しくECO!地球にやさしい電

活動報告

気をつくろう!」と題した体験教室を実施した。ハンディライトの組立て、手回し発電で動くぬいぐるみレース、クイズを通して、再生可能エネルギーについて考えた。

【北陸環境共生会議】北陸三県と北経連で構成（協力：北陸電力(株)）。北陸の環境問題に取り組む。

第20回 北陸(日本)・韓国 経済交流会議

日 時：本会議：8月26日（月）
産業視察：8月25日（日）、27日（火）
場 所：韓国 江原(カンウォン)特別自治道
江陵(カンヌン)市 セントジョンズホテル
参 加：133名（日本側39名、韓国側94名）

北陸（日本）・韓国経済交流会議が、2018年福井市での開催以来6年ぶりに開催され、北陸三県と韓国の東海岸2市・2道の自治体、企業等が参加した。



冒頭、北陸からの訪問団の団長を務める金井会長と韓日経済協会の徐錫崇(ソ・ソクスン)常勤副会長が開会挨拶し、中部経済産業局の伊藤地域経済部長、韓国・産業通商資源部の金鍾喆(キム・ジョンチョル)通商協力局長が祝辞を述べた。



その後、「日・韓地域間交流の促進」をテーマに、両国の自治体6名が地域活性化政策について発表。続けて、韓国に進出した会員企業による交流・連携事例や、物流・観光分野での両国企業・団体の取組み・連携に関し、計13名が発表した。特に、繊維、化学、医療機器、港湾物流、地域観光等、両地域の主要産業や供給網、未来新産業に関して議論を深めた。



全体を通じて、日韓の課題が共通していることを踏まえ、交流活性化や経済連携強化を図る重要性を確認した。来年は北陸で開催される予定。

翌日の産業視察では、メディアアート型美術館、科学技術を駆使した栽培施設、水素複合ステーション、水素実証団地を視察した。江陵科学振興院では最先端メタバースも体験した。



「フィンランド共和国経済視察」 第1回事前勉強会

日 時：9月3日（火）15:30～17:00
場 所：ホテル日航金沢（対面開催のみ）
参 加：21名（含む、視察団メンバー16名）

フィンランド共和国経済視察への参加者を対象に事前勉強会を開催した。冒頭、視察団の団長を務める金井会長が挨拶し、今回の視察の背景や目的を確認し合い、意義深い視察にしたいと決意を述べた。

まず、駐日フィンランド大使館の志垣上席商務官からフィンランドの概要、視察ポイント、ウェルビーイング経営を志向するフィンランド人の考え方等について、次に、(株)デジタルホールディングスの菅原DE&I推進室長からフィンランド企業視察で学んだ先進的な知見を活かした社内改革について、講演があった。

参加者は北欧に対する理解を深め、10月の視察に向けてより一層期待感を高めていた。



第11回北陸産学連携懇談会

日 時：9月4日（水）13:00-14:50
場 所：金沢美術工芸大学
出 席：20名

会員大学長と北経連役員との北陸産学連携懇談会を開催し、大学からは金沢美術工芸大学の山村学長はじめ11名、北経連からは金井会長はじめ9名が出席した。冒頭、金井会長が挨拶し、産学連携で取り組むべき課題は多く、「スマート・リージョン北陸」の実現に向けて連携を深化させたいと述べた。

自由懇談では「産学連携活動における重点分野と経済界・大学への期待」をテーマに、各大学が重点的に取り組む活動を紹介し、大学と経済界から双方への期待や要望について意見交換を行った。

大学からは、企業との共同研究や自治体等の地域連携の事例、大学発スタートアップ、リスキル教育プログラム、産学融合研究拠点、産学官金連携プラットフォーム等の紹介があった。

その後、北経連からDX推進とデジタル人材育成、カーボンニュートラルに向けた森林研究、産学連携マッチング、理系と文系の学生比率是正、地域の人口減少問題等について発言があり、活発な意見交換が行われた。

最後に稲垣副会長が閉会挨拶の中で、北経連が来年度に第六次中期アクションプラン（5か年中期計画）を策定することに触れ、産学連携を更に活性化すべく大学の協力継続を依頼した。



金沢美術工芸大学見学会

日 時：9月4日（水）15:00-16:40
場 所：金沢美術工芸大学
参 加：32名

新たな価値創出委員会と総合対策委員会の共催で金沢美術工芸大学見学会を開催した。

山村学長が開会挨拶と概要説明を行い、寺井学長補佐社会連携担当理事が同校の社会共創センターの産学連携・地域連携の取組みについて紹介した。

金沢マラソンの完走メダルや菓子のパッケージ、病院のスタンドグラス風装飾、眼鏡フレーム、大手ゲーム

活動報告

会社のキャラクターなど身近で有名なデザイン制作と
いった連携実績の他、卒業生の幅広い分野での活躍な
ど同校の新たな面が数多く見られた。



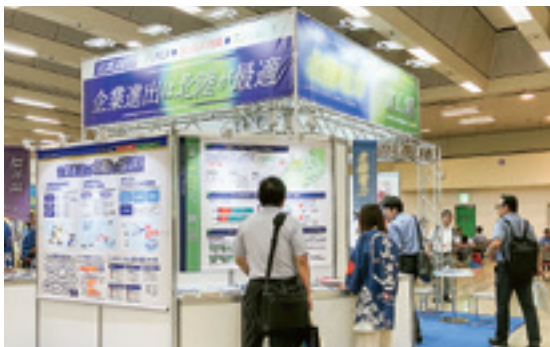
彫刻、工芸、デジタルコンテンツ等を制作する工房、
学生の作品を展示するアートコモンズ、大学で所蔵する
作品を展示するアートギャラリー、附属図書館等を見学
し、質疑応答の後、新たな価値創出委員会 北村委員
長の挨拶で閉会した。

国際フロンティア産業メッセへの出展 (企業誘致活動)

日 時：9月5日(木)～6日(金)
場 所：神戸国際展示場

北陸三県と北陸電力(株)・北経連で構成する北陸
地域企業誘致連絡会(北陸国際投資交流促進会議)
は、西日本最大級の総合展示会「国際フロンティア産
業メッセ」に出展した。

北陸の立地環境、支援制度、働きやすさ・暮らしや
すさを紹介し、北陸地域への企業進出をアピールし
た。北経連は、北陸新幹線など社会基盤整備状況や、
北陸のシェアトップ企業を紹介した。



三経連経済懇談会

日 時：9月10日(火)～11日(水)
場 所：ホテルフジタ福井、日華化学
NICCA イノベーションセンター、永平寺
参 加：67名

冒頭、金井会長が挨拶し、北海道・東北の両経連か
らの災害義援金への御礼と、北陸の景況と課題、北経
連の取り組みを紹介した上で、「震災からの復旧・復興と
『新・地方創生』に向けて」をテーマに、三経連が連携
して取り組むべき課題について幅広い視点から活発に
意見交換したいと述べた。

●意見交換(北経連からの発言)

1「能登半島地震からの復旧・復興」

・東田専務理事 被災・復旧状況報告

・牧野常務理事「産業復興・再生ビジョン」報告

2「地域の付加価値向上に向けた産業振興」

・清川常任理事 産学官連携深化による産業振興

・大井常任理事 北海道への質問(洋上風力参入支援)

3「多様な人材の活躍推進」

・林副会長 女性活躍等、多様性・一体性への取り組み

・光野常任理事 東北への質問(副業・兼業促進)

4「『新・地方創生』に向けた経済連合会の役割」

・八木副会長 北陸新幹線早期全線開業、域内連携強化

●要望活動

三経連としての決議を採択。本決議を要望書とし、
11月13日(水)に三経連合同で実施予定。



●視察：日華化学(株) NICCAイノベーションセンター

快適性・機能性・創造性を高める工夫の数々に触
れ、社内コミュニケーション活発化、イノベーション推
進につながる大きなヒントを得た。

その後、永平寺を視察。当地では外国人観光客が増
加し続けており、その魅力を体感した。



※北海道・東北経済連合会の取り組みについて、末尾
の【特集】に掲載。

北陸地区観光商談会

日 時：9月17日(火)13:30～17:00
場 所：東京池袋・ホテルメトロポリタン
参 加：約130名

北陸広域観光推進協議会は、北陸三県の観光連盟
との共催により、首都圏の旅行会社等と北陸の観光事
業者とのマッチング観光商談会を開催。

この商談会でのPRを通じて旅行商品の造成等が
行われる。大手に限らず首都圏の中小旅行会社や観光
協会等の公的機関も参加する商談会であり、北陸新幹
線敦賀延伸もあって、例年以上に参加者が多く、北陸の
「本物の美」を旅行会社等に売り込んでいた。



地域間連携 スタートアップ マッチングピッチ 北陸×大阪・関西

日 時：9月18日(水) 14:30-17:00
場 所：福井市ハビリンホール(オンライン併催)
参 加：65名

地域の枠を越えてスタートアップの事業展開を支援
するピッチイベントを大阪商工会議所と共催した。ス
タートアップ6社(北陸・関西各3社)が、生産性向上を
テーマにAI、DX、ドローン等を活用した事業、サービス
についてプレゼンし、大阪商工会議所、中小企業基盤
整備機構、当会が新事業創出の取り組みや支援メニュー
を紹介した。交流会では、参加者がスタートアップ代表
者と活発に交流した。

登壇したスタートアップとの提携等に関して、コンタ
クトを希望される方は、お問い合わせ下さい!

【問合せ】naruse@hokkeiren.gr.jp



●登壇スタートアップ

- ・(株)NK SkyTech Solutions：ドローン飛行日誌作成
- ・アルム(株)：NCプログラミング作業自動化ツール
- ・(株)アラリード：食品製造業の生産管理システム
- ・DeepForest Technologies(株)：樹木観測システム
- ・(株)Deepcraft：AIによる製造・物流工程効率化
- ・(株)IDDK：マイクロデバイスによる顕微鏡技術

社会基盤委員会 現場視察会

日 時：9月26日(木)
場 所：①NEXCO中日本 日野川橋床版取替
②近畿地方整備局 足羽川ダム
参 加：21名(事務局3名含む)

活動報告

①北陸自動車道 日野川橋 床版取替工事

開通から50年が経過し老朽化が進む北陸道の内、福井県の日野川橋 橋梁の床部分を取り替えるリニューアル工事の現場を視察した。

NEXCO中日本 森島 金沢支社長、橋本 福井保全・サービスセンター所長から工事概要や諸工夫に関する説明を受けた後、参加者は、普段立ち入れない高速道路の本線で、取り外された古い床板を大規模クレーンで吊り上げる作業を間近で見て、私たちの安全を守ってくれている人々の苦労を実感していた。



②足羽川ダム建設工事（九頭竜川水系足羽川）

2004年の福井豪雨災害の反省も踏まえ、足羽川等の洪水防御のため進められている、足羽川ダム建設の背景や事業の重要性について、近畿地方整備局の橋爪工事事務所長から説明を受けた後、提敷から流水型のダム本体（2029年完成予定、事業費 2,500億円、高さ96mの重力式コンクリートダム）やコンクリート運搬設備等を視察した。

参加者は、その規模の大きさに驚きつつ、熱心にカメラを向けていた。

人事担当者のための 男性育休講座

日 時：9月26日(木) 13:30-15:30
形 式：オンライン
参 加：20名

人事担当者向けの実践的な男性育休講座を開催した。（北経連は、男性育休を働き方改革やD&I推進の

重要な推進力と捉え、2024年2月には経済団体として初めて「男性育休100%宣言」に賛同。）

講座では取得日数の増加や、育休取得者の周りの社員へのしわ寄せや不公平感の緩和など、実務的な課題解決策について講義とグループワークを通じて学んだ。

参加者には講義内容も良く出来ており、グループワークで他社の人事担当者と情報交換できたことが有益だったと好評を博した。

講義では、誰が休んでも回る職場づくりに必要な「仕事の属人化の解消」を目指して、「細かく相談する」「情報を探す手間を減らす」「業務効率化で仕事の量を減らす」などのポイントが、具体例と共に紹介された。

なお、2023年男性育休取得率は、全国平均30.1%に対して、富山県33.9%、石川県24.3%、福井県31.4%。業種で差はあるが、企業規模に関わらず取得率は上昇している。

北経連セミナー「ウェルビーイング経営とは何か？先進企業に学ぶ考え方と実践」

日 時：9月27日(金) 13:30-15:00
録画配信10月7日(月)～10月20日(日)
場 所：オンライン
参 加：35名

「ウェルビーイング経営」の先進企業から具体的な取り組み事例を学ぶセミナーを開催した。

(株)丸井グループ 取締役上席執行役員CWOウェルビーイング推進部長 小島玲子氏が登壇し、ウェルビーイングを経営戦略として進めてきた同社の取り組みを紹介。ウェルビーイング経営の定義、定量的評価、企業文化変革に向けた事例を力説された。

(株)デジタルホールディングス／(株)オプトDE&I推進室長 菅原智華氏は、DE&I（多様性、公平性、包括性）の目標設定やワークショップの開催など同社の取り組みと

ともに、実践から得られたDE&Iの核心的な考え方について紹介された。

カーボンニュートラルBASE北陸 キックオフイベント

日 時：10月3日(木) 13:30-15:30
場 所：ホテル金沢（オンライン併催）
参 加：約100名（現地参加40名）

北陸地域のカーボンニュートラル（CN）を推進するため、産学官金が一体となったプラットフォーム「カーボンニュートラルBASE北陸」を立ち上げ、キックオフイベントを開催した。

北陸三県や他地域の取組みに関して情報共有した上で、各社の現状や抱えている課題についてグループに分かれて情報交換会を実施した。

12月にCNに関するコンテンツを見える化するウェブサイトを開設。CNに関する補助金やセミナー等の情報を発信中。



北投促オンライン勉強会 地方創生 10年の『これまで』と『これから』

日 時：10月4日(金) 15:00-16:00
参 加：41名

SOMPOインスティテュートプラス(株) 上席研究員 岡田豊氏が、「地方創生10年の『これまで』と『これから』」と題して講演。地方の人口減少の背景、東京一極

集中是正の問題、コロナ禍の人口移動への影響等について、石破 新政権の進める「地方創生の強化」と絡めて解説された。

対日直接投資において地方に大きな可能性を感じる分野としては、東京圏が突出して強い分野ではないスタートアップや、地域資源をフルに活用した観光ビジネス等を挙げた。今後の北陸三県への企業誘致を進めていく上で参考になる内容だった。

北陸デスティネーションキャンペーン オープニングイベント

日 時：10月5日(土)～6日(金)
場 所：加賀温泉駅前広場

JR西日本と北陸三県、北経連などによる大型観光誘客キャンペーン「北陸デスティネーションキャンペーン」（北陸DC）が10月に始まり、最初の週末となる10月5日・6日、加賀温泉駅でオープニングイベントが開催された。



オープニング式典での御陣乗太鼓の他、人気和太鼓グループ「DRUM TAO」や、北陸三県の伝統芸能がステージで披露され、多くの人が集まった。更に、伝統工芸展示・体験やグルメ、特産品の販売などで、訪れた人に北陸の魅力をアピールした。

北陸DCは12月31日まで。期間中にはイベントを予定しており、次回は11月3日（日）～4日（月）、氷見市で北陸グルメイベントを開催する予定。

活動報告

西日本経済協議会（西経協）総会

日 時：10月8日(火) 14:00-17:30
場 所：岐阜県下呂温泉
テーマ：「強靱で魅力に溢れる地域の創成を目指して～未来を拓く西日本からの提言」
参 加：176名



中部（幹事）、関西、四国、九州、中国、北陸の6つの経済連合会で構成する西日本経済協議会は、第66回総会を開催した。

金井会長は、北経連の取組みとして、集中豪雨の被害対策も含めて、能登の復旧・創造的復興に取り組んでいること、北陸新幹線の敦賀・大阪間の来年度末までの事業計画の認可・正式着工、全線開業までの可能な限りの工期短縮を政府に求めていくことを報告。

総会では、イノベーション促進による成長産業の創出、GX実現に向けた取り組み推進などを求める決議を採択し、11月下旬までに政府に対する要望活動を実施する予定。

とやま環境フェア出展

日 時：10月12日(土)～13日(日)
場 所：テクノホール（富山産業展示館）

北陸環境共生会議は、とやま環境フェア 2024に出展し、小中学生を対象に「楽しくECO! 地球にやさしい電気をつくろう!」と題した体験教室を開

催した。訪れた親子は、ハンディライトの組立て、手回し発電で動くぬいぐるみレース、クイズを楽しみながら、再エネ等の環境問題に触れる機会になって良かったと話していた。



【北陸環境共生会議】北陸三県と北経連で構成（北陸電力(株)協力）。北陸地域の環境問題に取り組む。

フィンランド経済視察

日 時：10月12日(土)～20日(日)
場 所：フィンランド ヘルシンキ市、タンペレ市
参 加：17名(団長 金井会長、副団長 稲垣副会長)

北欧フィンランドに経済視察団を派遣した。

これは、同国が次々とイノベーションを起こし、世界幸福度ランキング1位を7年連続で記録した背景等を探るとともに、「ウェルビーイング経営」、「GRP向上」、「脱炭素」、「産官学連携によるスタートアップ創出・育成」、「サステナビリティ・DE&I」等の先進的な取組みと考え方を体感し、会員企業の経営改革や生産性向上に繋がる新たな視点を得るため実施したもの。（北経連の次期中期アクションプラン策定に資する知見を得ることも目的の一つ）

視察では、フィンランド通商局、ヘルシンキ市通商局、タンペレ市通商局、国立ヘルシンキ大学、国立技術開発センター、スタートアップ支援施設、ヘルシンキ市電力会社、タンペレ市商工会議所、関連大手民間企業など、19の機関や企業と面談・視察し、先進的な取組みと最新の動向について学ぶ貴重な経験ができた。



今回は、駐日フィンランド大使館商務部の全面的協力・支援のもと多くの企業・団体を訪問でき、岡田駐フィンランド日本大使やフィンランド日本商工会議所にも現地の政治・経済情勢、事業環境について直接聞くことができ、大変実りある、有意義な視察となった。今後、本視察での学びや成果を会員間で広く共有し、各事業活動に活かしていきたい。

北陸技術交流テクノフェア2024出展

日 時：10月17日(木)～18日(金)
場 所：福井県産業会館
来場者数：約19,000人
主 管：福井商工会議所（北経連は実行委員会参画）

北陸技術交流テクノフェアに北陸産業活性化センター(HIAC)、金沢工業大学と出展し、北経連は高シェアを有する北陸のものづくり企業を紹介する冊子「北陸のシェアトップ150」等を配布した。

HIACは「新事業創出助成」事業を、金沢工業大学は「VR型チェアスキーシミュレータの開発」等を紹介し、ブース訪問者と交流した。



北陸国際投資交流促進会議（企業誘致）Japan IT Week秋 出展

日 時：10月23日(水)～25日(金)
場 所：幕張メッセ

北陸三県と北陸電力(株)・北経連で構成する北陸地域企業誘致連絡会（北陸国際投資交流促進会議）は、「Japan IT Week秋2024」に出展した。

IT関連企業を対象に、北陸の立地環境、支援制度、働きやすさ・暮らしやすさを訴求し、北陸地域への企業進出を提案した。北経連は、新幹線の開業状況、産業分野への支援等を紹介した。

今回、企業側から聴き取った課題や要望を今後の誘致活動の一助としたい。

ベトナム政府幹部研修生受け入れ

日 時：10月24日(木)～25日(金)
場 所：富山市、中村留精密工業(株)

北経連と北陸AJECは、政策研究大学院大学、ベトナム共産党中央組織委員会とJICA間の戦略的幹部研修プロジェクトとして、短期研修生（中央・党の局長級）17名、専門幹部5名等、総勢34名の受け入れに協力した。

まず、富山市役所で美濃部副市長らに迎えられ、同市の公共交通を軸としたコンパクトシティ戦略による都市経営の構築とその深化型市民中心・データ駆動型スマートシティに関する研修を受講した。

翌日は、石川県の中村留精密工業(株)を訪問し、深山取締役管理本部長らの案内で、AGV導入の新工場をはじめ、工場・設計研究部門を視察した。

今回の研修生は同国の政策立案者等の専門家で

活動報告

あったため、大変熱心な議論が交わされ、政策研究大学院大学 高田副学長、工藤教授、研修生からも、有意義な機会であったと謝意が示された。



第11回関西・北陸交流会

日 時：10月25日(金) 15:30-17:40
場 所：グランフロント大阪
参 加：約150名

第11回関西・北陸交流会が開催され、両地域の産学官関係者が集い、「『新幹線がつなぐ、進化する関西・北陸』～万博と北陸新幹線延伸で、関西・北陸にもっとかがやく未来を～」をテーマに基調講演が行われた。関西経済連合会の松本会長、大阪商工会議所の鳥井会頭、関西経済同友会の宮部代表幹事、北経連からは金井会長が挨拶した。

金井会長は、2024年3月の北陸新幹線金沢・敦賀間の開業効果や敦賀・新大阪間の全線開業の必要性に加え、太平洋側有事の際の首都圏と関西圏を結ぶ代替機能等について説明し、関西の経済団体等との緊密な連携のもと、早期全線開業に全力で取り組む決意を述べた。



会員懇談会（石川会場）

日 時：10月31日(木) 14:30-17:00
場 所：ホテル金沢（オンライン併催）
参 加：81名（会場50名、オンライン31名）
テーマ：DX(デジタルトランスフォーメーション)



冒頭挨拶で、金井会長は「DXの目的は、ビジネスモデルそのものを変革し、変化の激しい市場で競争優位性を確保すること。DX推進には、経営者の強力なリーダーシップが重要で、十分な知識スキルを持った人材の確保・育成が必要」とした。

(株)小松製作所スマートコンストラクション推進本部事業開発部の村上数哉 主幹は、「安全で生産性高いスマートでクリーンな未来の現場の実現を目指して」と題して講演。労働力不足、安全性、環境適合性、コスト等の課題を徹底的なDXで解決する、スマートで効率的な建設現場の将来像を紹介した。

三井物産(株)デジタル総合戦略部 鈴木次郎 事業系DX担当部長補佐は、「三井物産でのDXを通じて～デジタルトランスフォーメーションの推進は？～」と題して講演。同社のデジタル人材育成や、森林のCO2吸収量の可視化、レベル4自動運転トラック輸送等の事業を紹介した。

いずれの講演にも、参加者から多くの質問があり、DXに対する関心の高さが窺えた。

閉会挨拶では本多常任理事が、「社内外のデータの見える化やデジタル化、更にはAIの活用により、DXが社会や企業の課題解決に革新的な力を発揮することを実感した」と述べた。

北陸デスティネーションキャンペーン 北陸グルメイベント

日 時：11月3日(日・祝)～4日(月・休)
場 所：氷見市芸術文化館

JR西日本と北陸三県、北経連などが連携して開催中の観光キャンペーン「北陸デスティネーションキャンペーン（DC）」では、北陸三県の食をテーマに「北陸グルメイベント」を開催した。

オープニング式典では、DC実行委員会を代表して新田富山県知事とJR西日本の石原金沢支社長が挨拶した。新田知事は、DCが北陸新幹線の敦賀開業効果を更に高め、能登半島地震の被災地の復興を後押しすることへ期待を示した。

北陸各地の食の屋台や地酒飲み比べ、氷見有磯太鼓など伝統芸能ステージ、観光PRクイズラリーが催され、多くの人で賑わった。DCは12月末まで行われる。

【詳細】<https://visit-hokuriku.jp/>

マッチングハブ北陸2024 （北経連後援）

日 時：11月12日(火)～13日(水)
場 所：ANAクラウンプラザホテル金沢
主 催：北陸先端科学技術大学院大学(寺野稔 学長)
産学官金連携イベント「Matching HUB Hokuriku

2024」が開催され、企業、大学等から多数が参加した。

金井会長は来賓挨拶で、「本イベントの参加者間で十分に意見交換され、数多くのビジネスの『種』が作られることを期待する」と祝辞を述べた。



2日目は企業等のパネル展示と、北陸の大学発スタートアップを紹介する「TeSH DEMO DAY 2024」が同時開催された。北経連の出展ブースでは、北陸のものづくり企業を紹介した冊子「北陸のシェアトップ150」等を配布した。

北陸選出自民党国会議員 との懇談会

日 時：11月13日(水) 7:30-8:45
場 所：ANAクラウンプラザホテル金沢
参 加：19名（議員12名、当会7名）

今年度の政府要望をテーマに、北陸選出の自由民主党国会議員と懇談会を開催。金井会長、高松副会長、林副会長、庵副会長等7名が出席し、要望のポイントについて説明した。

出席した議員からの主な発言は以下の通り。

- ・補正予算を早期に成立させ、能登半島地震・豪雨の被災者に十分な支援が行き渡らせたい。
- ・北陸新幹線の早期全線開通に向け、令和7年度（2025年度）中の認可・着工に着実に取り組む。
- ・年内に取りまとめる第7次エネルギー基本計画に原子力発電の推進を織り込みたい。



三経連要望活動

日 時：11月13日(水)10:00-17:15
場 所：自民党、経産省、国交省、農水省、内閣府
参 加：金井会長、北海道経連 藤井会長
東北経連 増子会長 ほか

北陸・北海道・東北の3つの経済連合会で構成

活動報告

する三経連として、政府等への要望を実施した。

9月10日に経済懇談会で採択した決議に基づき、取りまとめた要望事項は次の5項目。

- ①能登地方における災害からの復旧・復興
- ②国土強靱化と地域を支える社会資本整備の推進
- ③地域の付加価値向上に向けた産業振興
- ④GXの推進
- ⑤多様な人材の活躍推進

金井会長からは、能登地方における被災地の復旧・復興、北陸新幹線敦賀―大阪間の早期全線整備、原子力政策の着実な推進等について要望した。

<要望先>

- ・自由民主党 森山 裕 幹事長（写真中央右）
- ・内閣府 伊東 良孝 大臣(地方創生担当)
- ・内閣府 坂井 学 大臣(防災担当)
- ・国土交通省 中野 洋昌 大臣、水嶋 智 審議官
- ・農林水産省 滝波 宏文 副大臣
- ・経済産業省 飯田 祐二 事務次官



北陸新幹線（敦賀・大阪間）建設促進 総決起大会、合同中央要請

●総決起大会

日時：11月14日(木) 11:45-12:45
場所：ザ・キャピトルホテル東急（東京都）
参加：約320名

●総決起大会

関西広域連合、京都府、大阪府、関西経済連合

会は、北陸新幹線の建設促進総決起大会を開催した（北経連参加の北陸新幹線建設促進同盟会が協賛）。沿線13府県の自治体や議会、経済団体が参加し、年内に詳細な駅位置・ルートを決定し、2025年度中の認可・着工に向け、新規着工に必要な予算の確保、施工上の諸問題の解決等を政府・与党に要望することを決議した。

北経連の金井会長は北陸経済界を代表して挨拶し、「金沢・敦賀間の開業により沿線各駅の賑わいが続いており、改めて新幹線効果の大きさを感じた。敦賀・新大阪間については経済波及効果や国土強靱化の観点から多くの役割が期待されており、来年度中の正式着工に向け、関西の皆様と緊密に連携していきたい」と話した。

●合同中央要請

大会終了後、関西広域連合、関西経済連合会、北陸新幹線建設促進同盟会、北陸経済連合会等の関係7団体は合同で、決議内容等について関係各所への要請活動を行った。

<要請先>

- ・自民党 小野寺五典 政務調査会長（写真）
- ・PT関係 西田昌司 与党敦賀・新大阪間整備委員会委員長、稲田朋美 自民党整備新幹線等鉄道調査会会長
- ・公明党 赤羽一嘉 副代表、中川宏昌 北陸信越方面本部長
- ・総務省 村上誠一郎 総務大臣
- ・国交省 水嶋智 国土交通審議官



経団連との第51回北陸地方経済懇談会

日時：11月20日(水)
場所：のと楽(和倉温泉)、ホテル日航金沢
参加：123名(会場100名、オンライン23名)
テーマ：能登地域の創造的な復興に向けて

今年度の懇談会は、能登地域の創造的な復興に向け、今後取り組むべき施策の方向性や課題等について経団連と北経連が意見交換するとともに、復興に向けて北経連会員と意思を共有すべく、被災地である和倉温泉で開催した。

懇談会では、茶谷七尾市長からの復旧・復興に関する講演後、北経連が6月に公表した「能登半島地震からの産業復興・再生ビジョン」で掲げた3本柱

- ①資源の価値化による稼ぐ観光地「能登」の実現
- ②高付加価値産業が育つ「能登」の実現
- ③脱炭素を起点とした新しい「能登」の実現

に関して、北経連の取り組みを紹介し、経団連からそれぞれ建設的なコメントをいただいた。

懇談会に先立ち、本年4月に続いて、経団連役員と金井会長は輪島市内、和倉温泉を視察した。

輪島市内では、坂口輪島市長から被災当時の様子や解体作業が進む朝市通りの工事進捗状況について説明があり、輪島漆芸美術館で輪島塗の大型地球儀や輪島塗仮設工房で再開した制作活動を視察した。



また、和倉温泉では、旅館「あえの風」を視察し、被災当時の宿泊客の安全確保や帰宅支援に関して、七尾市からは海側に立つ旅館の修繕と並行した

護岸復旧工事計画について説明を受けた。

懇談会後の共同記者会見で、金井会長は「地震・豪雨の二重災害の状況下でやるべきことが多い中、輪島朝市通りの公費解体が進み、和倉温泉の護岸復旧工事の方向性が明らかになるなど、復興に向けた歩みが見えてきている。当会としても能登復興に向けて引き続きしっかり取り組む」と述べた。

また、十倉会長は「能登人の優しさ、自然景観の美しさ、伝統工芸の素晴らしさなど、能登の強みを活かした復興に期待している」と話した。



北陸環境共生会議「つるが環境フェア Cool CHOISE 2024」出展

日時：11月23日(土)
場所：きらめきみなと館（敦賀市）

北陸環境共生会議は、再生可能エネルギーをテーマに「つるが環境フェア」に出展し、小中学生を対象に「楽しくECO！地球にやさしい電気をつくろう！」と題した体験教室を開催した。

北陸のカーボンニュートラル実現に向けた活動の一環。

多くの親子連れと共に、手回し発電のライトの組立てやクイズを通して、地球温暖化防止のための行動様式について考えた。

【北陸環境共生会議】北陸三県と北経連で構成（北

活動報告

陸電力(株)協力)。北陸地域の環境問題に取り組む。



会員懇談会（富山）

日 時：11月25日(月) 14:30-18:00
場 所：富山電気ビルディング（オンライン併催）
参 加：72名（会場55名、オンライン17名）
テーマ：カーボンニュートラル（CN）



冒頭挨拶で、金井会長は、「温室効果ガス削減は喫緊の課題。2050年までのCN達成に向け、世界各国が協力し、産業界と消費者が一体となって省エネや再エネ導入促進、新技術の活用に努めていきたい」と述べた。

サーキュラーエコノミーの専門家、安居昭博氏は「欧州サーキュラーエコノミーに探るビジネスモデルと都市構造」と題して講演。使用後の製品や資材を回収・再利用するビジネスモデル、修理しやすい製品デザインなど、企業の実践事例を多数紹介した。

三菱重工業(株)の森原雅幸 カーボンニュートラル推進室室長は「工場脱炭素を推進する戦略と実践」を題して講演。CN実現のため同社が取り組む技術開発や設備ごとの徹底した省エネ等を紹介した。

閉会挨拶では、庵副会長が「新たなビジネスのアイデアや気づきが数多く得られた。本講演を契機

に北陸地域のCN実現に向けた仲間作りを進めることが重要だ」と呼び掛けた。

社会基盤委員会現地視察会

日 時：11月27日(水) 9:30-15:30
場 所：伏木富山港、富山貨物駅
参 加：19名

モーダルシフト推進や、物流の2024年問題の解決策を学ぶ機会として、物流現場の視察会を開催した。

①伏木富山港

伏木海陸運送(株) 細川常務の挨拶後、国際物流ターミナルのコンテナヤードや同社倉庫での荷役作業、北陸で初めて導入された水素フォークリフト（写真中央）等の説明を受けた。その後、富山県営の渡船に乗船し、港内も視察した。

②富山貨物駅

日本貨物鉄道(株)金沢支店 藤嶋支店長の挨拶、貨物鉄道の仕組み・物流事情等の説明後、IDタグで管理された効率的なコンテナ積卸等を視察した。参加者からは、空荷の取扱いや、鋼材の運搬について質問があった。



西日本経済協議会 要望活動

日 時：11月28日(木)
場 所：東京都内

中部、関西、四国、九州、中国、北陸の6経済連合会で構成する西日本経済協議会は、「イノベーション促進による成長産業の創出」「GXの実現に

向けた取り組みの推進」「地方創生の強力な推進と未来社会の創造」「広域連携と国土強靱化に向けた社会基盤整備」を柱に、林 内閣官房長官（写真）、加藤財務大臣、中野国土交通大臣、武藤経済産業大臣、森山自由民主党幹事長等に対して、要望活動を実施した。

金井会長は、中野国土交通大臣、森山自民党幹事長に対して、能登地震・豪雨からの復興については幹線道路の本格復旧の加速を、北陸新幹線敦賀・新大阪間については今年中の詳細ルート・駅位置決定と来年度の正式工事予算の計上を要望した。



人財活躍推進委員会

日 時：12月2日(月) 12:20-14:00
場 所：金沢ニューグランドホテル
参 加：11名（会場6名、オンライン5名）

林委員長は冒頭挨拶で、10月に視察したフィンランドの先進的な取り組みについて紹介した。

また、女性の正規雇用が非正規雇用を上回ったという報道に触れ、労働力不足を背景に、首都圏の企業を中心に女性を正規雇用する動きが加速してきたと指摘。北陸企業もスピーディーに取り組まなければ、後手に回ると危機感を表した。

事務局からは、今年度取りまとめ予定の「北陸企業のダイバーシティ&インクルージョン（D&I）

推進の取り組み状況」や、外国人留学生の北陸企業への就職促進の取り組みについて報告した。

委員からは、近年注目される「公平性」（Equity エクイティ）の捉え方、公平性を実現するための働き方改革、D&I推進に向けた社会的要請が高まる中での女性管理職の積極的登用等、自社の取り組みを交えながら活発に意見が述べられた。

新たな価値創出委員会

日 時：12月3日(火) 12:20-13:45
場 所：ANAクラウンプラザホテル金沢
参 加：19名（会場12名、オンライン7名）

北村委員長は冒頭挨拶で、海外に比べ国内の自動化設備投資は遅れているが、北陸に多い世界でも有数の機械設備メーカーを活用するなどDXによる自動化を進め、生産性向上に繋げることが北陸経済にとって重要だと述べた。

事務局からは、デジタル人材育成講座、スタートアップとのオープンイノベーション、「北陸のシェアトップ150」改訂など今年度の取り組みについて報告した。

委員からは、各団体のDX推進支援の取り組み、北陸地域全体のデジタル化の底上げ、サーキュラーエコノミー等カーボンニュートラルの取り組み、人手不足に対する委員会間の連携等について発言があり、今後の事業活動に鋭意反映させていくこととした。

新たな価値創出オンライン講演会

日 時：12月3日(火) 14:00-15:00
参 加：80名（会場20名、オンライン60名）

(株)スギノマシン執行役員R I 事業部長 大西武夫氏が「スギノマシン流のDX取組による競争力強

活動報告

化」と題して講演した。

組織を横断したD X推進方法や、工場の稼働状況・生産実績を一元管理できるシステムの自社開発・導入により生産性向上を果たした事例を紹介した。

また、今後は生成AI技術を効果的に導入し、D XとC X（顧客体験価値）の両輪を回し、更なる競争力強化を図りたいと述べた。

参加者からは、D X人材の育成、顧客ニーズを捉えた製品展開に関する質問があり、同席した㈱スギノマシンの杉野社長は、従来のものづくり手法では差別化が難しくなったことを受け、D Xに取り組み始め、製造、営業、サービスが組織として一通貫となるソリューションビジネスに繋がったと回答した。



観光委員会

日時：12月5日(木) 12:20-13:30
場所：金沢ニューグランドホテル
参加：16名(会場14名、オンライン2名)

米沢委員長は冒頭挨拶で、米国の有力雑誌が旅行先として金沢を推奨していること、その背景に京都の混雑回避があることに触れ、金沢でのオーバーツーリズムを防ぐためにも、訪れる観光客を北陸の隅々まで分散させることの重要性を強調した。

事務局からは、能登の観光復興に向けた政府要望や情報発信、インバウンドの誘客促進、デスティネーションキャンペーン等の取組みについて報告した。

委員からは、今後もインバウンドの増加が予想される中で、県や市町の単位ではなく「北陸」としての知名度向上、京都の良い点やオーバーツーリズムで苦勞している点を学ぶ必要性、北陸周遊を促す二次交通やコンテンツ整備、能登復興の重要性等、様々な意見が交わされた。

社会基盤委員会

日時：12月9日(月) 12:20-13:00
場所：ホテル金沢
参加：16名(会場15名、オンライン1名)

光野委員長は冒頭挨拶で、北陸新幹線敦賀開業の経済効果や、東海道新幹線の代替路線としての重要性を実感・再認識しており、早期全線開業に向けて2025年度中の正式着工を目指して取り組むとした。また、中部縦貫自動車道についても、物流効率化や防災の観点から早期開通が重要だと述べた。

事務局からは、北陸新幹線の早期全線開業、能登の社会インフラの全面復旧・強化等の要望活動、北陸圏広域地方計画について報告した。

委員からは、能登の復興に関して、社会基盤の観点からは能登への円滑な送客に資する交通インフラの重要性が指摘された。

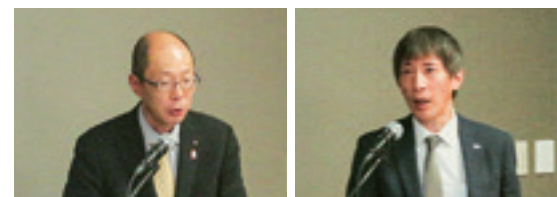
物流2024年問題 持続可能な物流の実現に向けた講演会

日時：12月9日(月) 13:10-14:15
参加：45名(会場15名、オンライン30名)

フクビ化学工業㈱ 執行役員の大谷幸宏氏は、パレット（荷役台）の共通化、受注出荷体制の見直し、物流拠点の再編など、持続可能な物流を目指

した荷主企業としての複合的な取組みについて説明した。

続いて、日本通運㈱のネットワーク商品企画部専任部長の宮田光揮氏は、同社の船舶と鉄道を組み合わせた輸送サービス「Sea & Rail 日本海ルート」が、CO2排出量削減やトラック運転手不足対策、災害時の代替輸送手段確保に役立つとして、活用事例等を紹介した。



中部・近畿経済産業局との懇談会

日時：12月10日(火) 13:30-15:45
場所：ANAクラウンスラザホテル金沢
参加：70名(会場43名、オンライン27名)

金井会長は冒頭挨拶で、能登復興に関して、建物の解体・撤去の人手不足などの課題が残っていることに触れるとともに、これからは地域経済を支える製造業や伝統産業、観光業の再建を進める必要があるとして、両経済産業局に更なる支援を求めた。

中部経済産業局の寺村局長、近畿経済産業局の林総務課長企画部長からの挨拶後、北経連の林副会長が「第五次中期アクションプランの取組状況」について、近畿経済産業局の林総務企画部長が「大阪・関西万博」について、直近の活動を報告した。

その後、以下の4つのテーマで意見交換し、相互の協力・連携の方向性を確認した。

- ①能登半島地震・豪雨災害からの復興
- ②人口減少下における生産性向上・成長力強化

に向けた支援

③オープンイノベーションの推進・新事業創出

に向けた環境整備

④GX実現を目指したエネルギー・環境対策



総合対策委員会

日時：12月13日(金)12:20-14:00
場所：ホテル日航金沢
参加：20名(会場13名、オンライン7名)

稲垣委員長は冒頭挨拶で、2024年は激動の1年であったが、足元では北陸の経済状況が緩やかに持ち直しているとし、フィンランド視察で得た知見を来年度策定する5か年の中期計画「アクションプラン」に織り込んでいきたいと述べた。

事業計画の実施状況について、委員からは「定量的な評価を導入すべき」「提言や情報発信後のリアクションをまとめることがKPIとして有効」と、事業評価に関して指摘があった。

また、2025年度事業活動方針（案）については、「能登の復旧に寄り添い、能登でスマート・リージョンを実現することが、北陸地域のウェルビーイングの実感に繋がる」といった意見があった。



活動報告

国際委員会

日 時：12月16日(月) 15:00-16:00
場 所：ホテル金沢
参 加：13名(会場11名、オンライン2名)

高納委員長は冒頭挨拶で、世界経済の現状について成長の勢いが弱まると予測される一方、AI関連の大規模投資が半導体や電子機器需要を押し上げ、中国やインドの公的投資が成長を後押ししていると述べた上で、引き続き世界経済情勢を注視し、経済交流の活性化や連携、国際化の促進が重要だとした。

その後、2024年度事業計画の実施状況と評価・方向性について審議し、北陸・韓国経済交流会議の継続開催や、フィンランド経済視察で得た知見等について、活発な意見交換がなされた。

その他、外国人留学生の北陸定着や高度外国人材の活用について、大学関係者も交えて今後の事業活動方針を確認した。来年度以降の調査テーマ、候補国などについても幅広く意見交換を行った。



2024年度 第2回 海外現地情勢報告セミナー ～中国～

日 時：12月16日(月) 16:15-17:30
場 所：ホテル日航金沢
参 加：35名(会場22名、オンライン13名)
演 題：中国の社会構造変化を見据えた事業再構築について
～北陸地区現地法人の課題から～
講 師：(一社)日中投資促進機構
代表理事・事務局長 岡豊樹 氏



高納委員長は冒頭挨拶で、北陸三県の企業が進出した約1,400の海外拠点のうち、中国が約560と最多である一方、中国経済の不透明さや社会構造の変化、経済安全保障の課題などを背景に、中国リスクへの対応が急務であると指摘した上で、当該リスクに対する戦略の見直しとともに、今後のビジネス展開に向けた理解を深める必要性を訴えた。

本セミナーは、前回の委員会で「中国リスクが高まる中、中国ビジネスにおける日系企業の課題と戦略を考える場を設けてはどうか」との提案を受け、中国に進出した会員企業にアンケート調査した結果を踏まえ開催した。

セミナーでは、中国社会の最新動向、日本企業が直面する課題と対中戦略の変化、中国ビジネスの最新キーワードについての講演が行われた。また、講演後は、中国政府が抱える喫緊の課題や中国人の働き方に対する意識の変化についての質問が活発に寄

せられ、現地の実情を反映した臨場感あふれる議論が展開された。本セミナーで得られた知見が、今後の中国ビジネスの実践に役立つことを期待したい。

第363回常任理事会

日 時：12月18日(水) 15:00-16:30
場 所：金沢ニューグランドホテル
参 加：28名(会場21名、オンライン7名)

金井会長は冒頭挨拶で、能登半島地震、北陸新幹線の敦賀開業と敦賀以西の動き、国内外の経済・政治情勢など、今年の動きを振り返るとともに、来年の主要テーマである次期アクションプラン（2026～2030年度の中期計画）策定への協力を呼び掛けた。

常任理事会では以下の事項について審議され、いずれも原案どおり承認された。

- (1) 役員の補充選任＜監事1名＞
豊北欽一氏（福井県信用保証協会 理事長）
〔石塚博英氏から交代〕
- (2) 2024年度事業計画の実施状況・評価
- (3) 2025年度事業活動方針（2025年1月27日開催の新春経済懇談会で公表予定）

このほか、10月に実施したフィンランド経済視察について事務局から報告した。



北陸産学技術交流会（見学会）製品評価技術基盤機構（NITE）が取り組むイノベーション支援等の紹介と施設見学

日 時：1月20日(月) 14:00-16:15
場 所：NITE北陸支所
参 加：20名(共催者・北経連10名含む)

吉田支所長から機構概要と産業界のイノベーション支援の事例紹介後、消防や警察、消費者センター等の依頼に基づく事故調査等に使用する設備を見学した。

同支所は、家電・家具や住宅建材等から放散した化学物質を測定するための設備機器と高度な分析技術を有しており、吸入事故の原因究明ができる国内唯一の公的専門機関であること等の説明があり、参加者と活発な質疑がされた。



北陸×新潟連携スタートアップピッチ

日 時：1月22日(水) 13:30-16:00
場 所：金沢商工会議所（オンライン併催）
参 加：45名

大学発スタートアップ、若手起業家の事業展開を支援するピッチイベントを新潟県と共催。スタートアップ 5社（北陸3社、新潟2社）がそれぞれの斬新な事業についてプレゼンした。

冒頭、新潟県、北経連が新事業創出の取組について紹介し、交流会では参加者とスタートアップ経

活動報告

営者が活発に意見を交わした。

登壇したスタートアップとのコンタクトを希望する方は、お問い合わせ下さい。

【問合せ】北経連 成瀬 naruse@hokkeiren.gr.jp

【登壇スタートアップ】

- ・(株)Dioptra：AI下水道点検調査アプリ
- ・(株)Riparia：SNSプロモーション他
- ・(株)NK SkyTech Solutions：ドローン飛行日誌作成
- ・長岡高専みちのくGAPファンドチーム：VRによるインフラ点検技能習得支援サービス
- ・合同会社SandBoxConnections：学生インターンシップによる海外調査



カーボンニュートラルBASE北陸マッキングイベント

日 時：1月23日(木) 13:30-15:40
場 所：富山県民会館（オンライン併催）
参 加：約130名

企業が持つカーボンニュートラル(脱炭素)に関する商品・サービスをPRし、商談に繋げるマッキングイベントを初めて開催。10社が自社の商品や取り組み事例を紹介し、12社が商談会に出展した。

オンラインを含む約130人が参加し、会場では、至る所で名刺交換等が行われ、大盛況だった。

●自社商品・取り組み事例紹介

- ・三協立山(株)三協アルミ社：カーポート型太陽光パネル架台「エネジアース」

- ・丸紅(株)：EV管理システム「おまかせEV for Biz」
- ・ホクショー(株)：垂直往復搬送機（オートレーター）専用 起動電力アシストシステム「VEAS」等
- ・富士通Japan(株)：サステナビリティ経営支援
- ・双日(株)：オフサイトPPA、EV充電システム等
- ・北酸(株)：水素・アンモニア供給
- ・北陸電力(株)：太陽光PPA、再エネ電気メニュー等
- ・(株)スタジオスポビー：行動変容アプリ
- ・(株)トヨックス：LED、オフサイトPPA、EV等
- ・日機装(株)：PPA、LNGオンサイト、非化石証書

●商談会出展（上記10社に加えて）

(独)中小企業基盤整備機構、トランスコスモス(株)



報告書「北陸企業DE&I推進の取り組み～女性活躍推進10年の歩みとこれからのダイバーシティ」公表

日 時：1月23日(木)

北経連は、DE&I（多様性、公平性、包摂性）推進について、北陸企業の取り組みを紹介した報告書を公表した。

本報告書は、会員企業へのインタビューをもとに北経連におけるこれまでの議論を盛り込んでまとめたもの。女性活躍はもちろん、外国人材や男性育休、キャリアパスなど、広がりを見せる多様性と、DE&I推進を通じて風土の変革を目指す企業の取り組みを紹介している。

インタビュー企業：川田工業(株)、共和電機工業

(株)、立山科学(株)、中村留精密工業(株)、(株)福井銀行 他

<報告書>

URL：https://www.hokkeiren.gr.jp/project/2084.html

QRコード：



北陸産学技術交流会（情報交換）福井工業大学「生成AIで拓く北陸の未来～観光・ビジネスと安心安全～」

日 時：1月29日(水) 12:00-14:15
場 所：福井工業大学 福井キャンパス
参 加：19名

福井工業大学との共催で、生成AIに関する情報交換を行う技術交流会を開催。同大学の芥子AI&IoTセンター長がデータ分析と生成AIを活用した接客と販売促進、おすすめの観光地を提案する観光DX基盤、病名診断ツール、医療従事者と患者を支援するAIチャット活用に向けた共同研究について紹介した。また、同センターの馬場口氏がSNS等の偽情報対策等についても紹介し、参加者と活発に意見交換が行われた。

また、交流会終了後に、同大学主催でAI&IoTコンソーシアムシンポジウム「生成AIで拓く北陸の未来～観光振興と地域住民の安心安全を想像する～」が開催された。



大阪での北陸観光PRイベント

日 時：1月30日(木) 11:00-14:00
場 所：HOKURIKU+（2024年7月大阪で開業）

北陸三県、北陸電力、北経連で構成する、北陸イメージアップ推進会議は、北陸三県の情報発信拠点HOKURIKU+（ホクリクプラス）において北陸の観光をPRするイベントを開催した。

同会議が運営する広域観光サイト「北陸物語」の公式Instagramをフォローした約50名が北陸新幹線の路線を模した「すごろく」を楽しみつつ北陸の魅力を感じられる良い機会となった。

参加者からは、「北陸に行きたくなるね」「旅行したらとても良かったよ」等の声が聞かれ、充実したイベントとなった。

会員懇談会（福井）

日 時：2月4日(火) 14:30-18:00
場 所：ホテルフジタ福井（ザ・グランデュアーズフクイ）
参 加：80名（会場48名、オンライン32名）
テーマ：ダイバーシティ&インクルージョン



金井会長は開会挨拶で、福井県内における北陸新幹線の開業効果に触れ、新大阪までの早期延伸に向けて沿線自治体や住民の理解促進に努めるとした。

活動報告

また、大阪・関西万博を訪れる国内外の観光客を北陸に呼び込み、活性化に繋がたいと意欲を見せた。

更に、ダイバーシティ & インクルージョン (D&I) 推進については、年齢や性別、国籍等に関係なく、誰もが活躍できる職場づくりの重要性を指摘した。

味の素(株)人事部シニアマネージャー小池愛美氏は、D&Iの持続的な推進のポイントとして、「経営層の定期的な発信」「働き方改革による人材確保と定着」「従業員の成功体験」の重要性を強調した。

(株)ファミリーエ代表取締役／NPO法人ファザーリング・ジャパン副代表理事 徳倉康之氏は、社員が辞めない仕組み作りの具体例を紹介し、ポイントは「定時退社」と「有給休暇の取得率向上」とした。

閉会挨拶で林副会長は、人口減少が進む中、D&I推進は不可欠であり、企業が体制を整えなければ人材が集まらないと述べ、残業なしでも生産性を高めるような働き方を実現すべきとした。

2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)機運醸成委員会

日 時：2月10日(月)
場 所：大阪府咲洲庁舎(オンライン併催)

2025年日本国際博覧会協会では、全国の経済団体等を委員とする機運醸成委員会を組織し、大阪・関西万博の効果的なPR方法、全国における機運醸成の取組みなどについて議論している。

2月10日に大阪で第5回機運醸成委員会総会が開催され、金井会長が現地会場で出席した。

まず、協会事務局から委員に対して、機運醸成に関する直近の取り組み実績、今後の方針について

説明するとともに、「開幕後の早期来場（特に4～5月）の呼びかけ」等について協力を要請した。

委員からは、各地・各団体における機運醸成の取組みが報告され、チケット購入方法の改善に対する要望や大阪以外でのPR強化の必要性、海外での機運醸成等、活発な意見が出された。

金井会長は、展示準備が進められている輪島塗の大型地球儀「夜の地球」が、万博の目玉となることへの期待についてコメントした。

今後、4月13日(日)の開幕が近づくにつれて、パビリオンやイベントに関する情報が続々と発信され、大いに盛り上がっていくものと期待される。



2025年度 北経連スケジュール

開催日 (予定を含む)	主要行事	備 考
5月13日(火)	第115回理事会・第364回常任理事会合同会議	金沢市
6月3日(火)	2025年度定期総会・第116回理事会・特別講演会	金沢市
7月	第365回常任理事会	金沢市
8月8日(金)	第32回北陸地域懇話会 (北陸・近畿地方整備局、北陸信越・中部運輸局との懇談会)	福井市
8月22日(金)	第52回三県知事との懇談会	福井市
8月26日(火)	第21回北陸 (日本)・韓国経済交流会議	金沢市
8月27日(水)	第27回三経連経済懇談会	未 定
10月16日(木)	西日本経済協議会 第67回総会	京都市
11月	第52回北陸地方経済懇談会 (経団連との懇談会)	福井市
12月10日(水)	第32回中部・近畿経済産業局との懇談会	福井市
12月	第366回常任理事会	金沢市
1月	新春経済懇談会	金沢市
日程未定	会員懇談会 (年3回)	各 県

新会員のご紹介（2024年4月1日～2025年4月1日）

積水ハウス株式会社 北陸シャーマン支店

（業種 建設業）

支店長 白川 敬大 様
〒920-8203 金沢市鞍月4丁目125番地
Tel:076-266-3011 Fax:076-266-3090

フィリップ・モリスジャパン合同会社

（業種 たばこ製品に関わる事業全般）

営業統括本部長 岡田 広介 様
〒530-0003 大阪府大阪市北区堂島2-4-27
JRWD堂島タワー15F
Tel:06-4798-1717 Fax:06-4798-2028

会員異動（2024年11月1日～2025年4月1日）（敬称略）

会社名・団体名変更【新】			【旧】		
株式会社北陸アイティエス 代表取締役社長 荻野 昌樹			株式会社北陸スタッフ 代表取締役社長 田中 喜之		
代表者名変更			【旧】		
アサヒビール株式会社 北陸支社	理事 支社長	乳井 三信	理事 支社長	上野 貴也	
アルコット株式会社	代表取締役社長	矢澤 剛志	代表取締役社長	浅野 端	
公立大学法人石川県立大学	学長	宮川 恒	学長	西澤 直子	
伊藤忠商事株式会社 中部支社	准執行役員支社長	大室 良麿	准執行役員支社長	佐藤 英成	
SMBC日興証券株式会社 富山支店	支店長	西村 望	支店長	門之園 勝之	
オリックス株式会社	北陸・信越ブロック長	大和田 千盛	北陸・信越ブロック長	山家 裕悟	
共和電機工業株式会社	代表取締役	大森 充	代表取締役	寺田 武志	
三機工業株式会社 北陸支店	執行役員支店長	東 勝彦	執行役員支店長	五十嵐一雄	
株式会社JTB 金沢支店	支店長	藤澤 靖彦	支店長	伊藤 隆明	
住友商事株式会社	執行役員中部支社長	堀越 卓朗	執行役員 国内担当役員補佐 中部支社長	岩波 剛太	
積水ハウス株式会社 北陸支店	支店長	尾崎 教郎	支店長	久保 貴義	
大和ハウス工業株式会社 北陸支社	支社長	坂東 希	支社長	石野 信治	
豊田通商株式会社 北陸支店	支店長	森 博志	支店長	岡野 雅貴	
日本製鉄株式会社 北陸営業所	北陸営業所長	岸本 幹生	北陸営業所長	北爪 彰人	
ヒューリックホテルマネジメント株式会社金沢事業部	執行役員金沢事業部長	原 一隆	執行役員金沢事業部長	小林 繁	
国立大学法人福井大学	福井大学長	内木 宏延	福井大学長	上田 孝典	
丸紅株式会社	北陸支店長	堀口 剛太	北陸支店長	上垣 雅裕	
ヨシダ宣伝株式会社	代表取締役社長	吉田 良	代表取締役社長	松井 渉	
代表者役職名変更			【旧】		
株式会社大林組 北陸支店	常務執行役員支店長	池田 恭二	執行役支店長	池田 恭二	
株式会社加賀屋	代表取締役会長	小田 禎彦	代表取締役	小田 禎彦	
紙ぶらす株式会社	代表取締役会長	若林 啓介	代表取締役社長	若林 啓介	
株式会社セキノ興産	代表取締役会長	山口 輝雄	代表取締役社長	山口 輝雄	
株式会社北國新聞社	代表取締役会長	砂塚 隆広	代表取締役社長	砂塚 隆広	
住所変更			【旧】		
株式会社日刊県民福井	〒910-8567 福井市中央1丁目3番5号 FUKUMACHI BLOCK 10F		〒910-8567 福井市大手3丁目1番8号		

新規会員ご紹介のお願い

「ウイズコロナ・ポストコロナ」の中で「スマート・リージョン北陸」を目指す
“北経連”への新規会員ご紹介をお願いいたします。

富山、石川、福井の三県からなる北陸地域は、急速に発展している東アジア諸国と日本海を介して対面しているとともに、東京、名古屋、大阪の三大都市圏に対して扇の要に位置しております。また、特色ある産業・技術の集積や豊かな自然環境、多彩な歴史・文化など多くの優れた地域特性を有しており、日本と対岸諸国との結節点として、更なる発展の可能性を秘めた地域であります。

私ども北陸経済連合会（略称：北経連）は、北陸三県をはじめとする関係機関と連携を図り、北陸新幹線や高規格幹線道路、港湾などの社会資本整備の促進、東アジア諸国との経済交流の促進、産業の振興支援等に積極的に取り組んでおります。

地域の主体性がますます重要となっている今日、これまで以上に北陸三県の経済界の総力を結集し、関係機関との連携、協働を進めていかなければなりません。

北経連の活動にご賛同いただける企業・団体の皆様のご紹介を、心よりお待ちしております。

入会ご希望の皆様へ

入 会 資 格：本会の目的にご賛同いただける法人、団体および個人

入 会 金：不要

年 会 費：1口 90,000円（1口以上）

入会お申し込み：下記、当会事務局までご連絡ください。

北陸経済連合会

〒920-0981
金沢市片町2-2-15北国ビルディング4階
TEL.076-232-0472 FAX.076-262-8127
HP <https://www.hokkeiren.gr.jp>
E-mail: info@hokkeiren.gr.jp

東京事務所
〒100-0013
東京都千代田区霞が関3-2-1
霞が関コモンゲート西館24階北陸電力(株)東京支社内
TEL.03-3502-0471 FAX.03-3502-0460

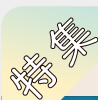




訪れるたび、新しい物語が紡がれる。
あなただけの「北陸物語」に
出会ってください。

北陸物語HPでは、7つのエリア・7つのカテゴリーから様々なスポットを検索できる北陸三県の情報はじめ、多様な切り口で楽しめるテーマ旅の提案、自分に合ったおすすめの旅を診断できる「ほくりく旅診断」など、北陸をより一層楽しめるコンテンツが充実しています。ぜひ、ご覧ください。

北陸三県（富山・石川・福井）をつなぎ、唯一の広域観光情報サイト
北陸物語 <https://monogatari.hokuriku-imageup.org/>



2024年3月
敦賀延伸！

北陸新幹線早わかり



あなたにぴったりの
北陸旅がわかる
「ほくりく旅診断」

北陸物語事務局：北陸経済連合会・北陸イメージアップ推進会議

金沢市片町2丁目2番15号 TEL:076-232-0472 mail:kankou01@hokkeiren.gr.jp

北陸イメージアップ推進会議は、昭和61年9月に、北陸経済連合会と北陸三県（富山県・石川県・福井県）、北陸電力株式会社が共同で北陸の正しい実態を広く北陸地域以外の人々に認識して頂き、北陸のイメージアップを図ることを目的として設立されました。



北陸経済連合会

〒920-0981 金沢市片町2丁目2番15号（北国ビルディング4階）

TEL (076) 232-0472(代) FAX (076) 262-8127

URL: <https://www.hokkeiren.gr.jp>

Email: info@hokkeiren.gr.jp